

株主メモ

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末3月31日 中間9月30日
■定時株主総会	毎年6月
■株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
■同連絡先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (〒541-8502) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777(通話料無料)
■公告方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dnt.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
■単元株式数	100株
■上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード4611)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

統合報告書2024



当社ではステークホルダーの皆様へ、当社の中長期的な企業価値向上に繋がる取り組みをご理解いただくことを目指し、統合報告書を作成しております。是非ご覧ください。

<https://www.dnt.co.jp/ir/library/integrated/>



IRメール配信サービス(登録無料)

Eメールアドレスをご登録いただいた方へ、当社の決算発表や経営戦略、開示情報などIR情報をタイムリーに配信しています。是非ご登録ください。

<https://www.dnt.co.jp/ir/support/mail/>



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

DNT
DAI NIPPON TORYO

第142期中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで

大日本塗料株式会社

経営理念

当社は、新しい価値の創造を通じて
地球環境や資源を護り、
広く社会の繁栄と
豊かな暮らしの実現に貢献できる
企業を目指します。

代表取締役社長

里 隆幸

代表取締役社長の里 隆幸でございます。株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、当社は11月29日付でJIS認証機関である一般財団法人日本塗料検査協会より、当社一部JIS製品に対してJISマーク表示の一時停止処分を受け、その事実について公表いたしました。株主・投資家、お取引先の皆様をはじめステークホルダーの皆様におかれましては、昨年に引き続き大変なご迷惑とご心配をおかけし、心よりお詫び申し上げます。

当社は、昨年10月に当社連結子会社における検査工程に係る不適切行為について、一度目のJIS

マーク表示の一時停止処分を受けました。本年3月7日付で処分を解除されて以降も、不適切行為の再発防止活動をはじめ品質管理体制の是正・強化を全社的に推進してまいりましたが、本活動の中で新たに不適切行為を確認したため、当該事象を日本塗料検査協会に報告し、同協会の臨時審査を受審しておりました。

新たに発覚した不適切行為は、まず、外注先に製造委託していた製品が、ルールに反してJISマークを誤表示していたこと、さらに未申請の外注先に対し一部のJIS認証製品の製造を誤って委託していたもので、当社の管理体制に重大な問題があると判断

され、この度の処分が下されました。

皆様からの信頼回復に向けて取り組んでいたなか、道半ばでこのような事態になりましたことを誠に遺憾に思っております。この度の事態を真摯に受け止め、不退転の決意で信頼回復にむけて取り組んでまいります。

2024年度中間期業績と通期業績予想について

当社グループの中間期の連結業績についてご報告申し上げます。今中間期におきましては昨年公表の不適切事案からの回復途上であることや、東南アジア市場の需要減少により前年同期比では減収減益の決算となりました。しかしながら期初公表の中間予想に対しましては、売上高は361億3千5百万円(中間予想：360億円)と、想定通りの推移となりました。利益面につきましては、主に国内塗料事業や照明機器事業において付加価値の高い製品群へのシフトや価格是正への取り組みが貢献し、営業利益は25億2千4百万円(中間予想：19億円)、経常利益は27億6千4百万円(中間予想：20億5千万円)と、それぞれ想定を上回ることができました。また、昨年来注力しております政策保有株式の縮減を図り、これによる投資有価証券売却益の計上により、親会社株主に帰属する中間純利益は27億1千6百万円(中間予想18億円)となりました。

この中間業績を受け通期業績予想としましては、売上高は期初公表の740億円を据え置くものの、営業利益は期初公表の42億5千万円から48億円へ、経常利益は45億円から50億円へ、親会社株主に帰属する当期純利益は38億円から43億円へと

それぞれ上方修正させていただきました。さらに、期末の配当予想につきましても、足元の業績動向や資本効率、経済情勢等を総合的に勘案し、1株当たり49円と期初予想から9円増額させていただくことといたしました。これによるDOE(株主資本配当率)は3.0%となる見込みであり、2026中計の目標としていた「2026年度にDOE3.0%到達」を前倒しで実現いたします。

なお、この度のJISマーク表示の一時停止処分による業績の影響については現在精査中であり、上記の通期業績予想の修正内容には織り込んでおりません。今後開示すべき事項が発生しましたら速やかに公表させていただきます。

創立100周年にむけて

当社は5年後の2029年度にむかえる創立100周年の“あるべき姿”として、連結業績目標を売上高1,000億円、営業利益100億円、NOPAT-ROE^{*}8%程度、株主の皆様への還元をDOE5%以上と設定し、実現へのロードマップを「ビジョン2029」として策定しました。今年度からスタートした2026中計では、ビジョン2029の実現に向けた事業戦略と基盤の深化をテーマに諸施策に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

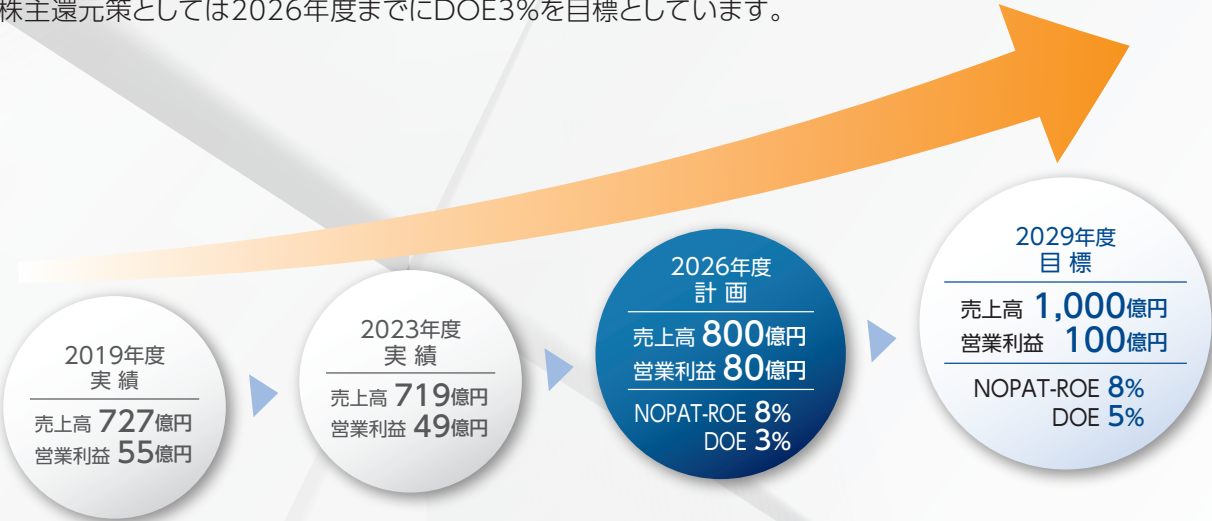
2024年12月

^{*}税引き後営業利益ベースのROE

「2026中期経営計画」の概要

当社は創立100周年を迎える2029年度におけるありたい姿として、連結売上高1,000億円、連結営業利益100億円、NOPAT(税引後営業利益)-ROE8%程度、DOE(株主資本配当率)5%到達を「ビジョン2029」として明確化いたしました。今年度よりスタートした3か年の「2026中期経営計画」においては、ビジョン2029の実現に向けた事業戦略と基盤の深化に注力し、3つの基本方針に取り組みます。

最終年度である2026年度の連結業績目標は、売上高800億円、営業利益80億円、NOPAT-ROE8%程度とし、株主還元策としては2026年度までにDOE3%を目標としています。



「2026中期経営計画」の基本方針及び施策

成長市場と先駆的領域への注力	- 各事業の有機成長の推進と、新たな成長ドライバの育成に向けた、リソース配分の最適化と戦略投資の実行 - 顧客ニーズに沿ったサステナビリティ貢献製品・海外製品等、開発力の強化
外部リソースの獲得・活用による事業基盤の拡大	- M&Aや業務提携等のアライアンス活用による塗料事業の基盤拡大及び抜本的効率化 - 自立的な事業推進に向けた外部リソース獲得による海外事業基盤の拡大
人材及び事業活動の全社最適化	- 採用・育成強化及び人材配置の最適化、職場環境の整備 - 製品開発力と総合提案力を最大化する組織・グループ間協働の強化 - 適時適切な設備更新及びDXの活用による、生産性の更なる向上

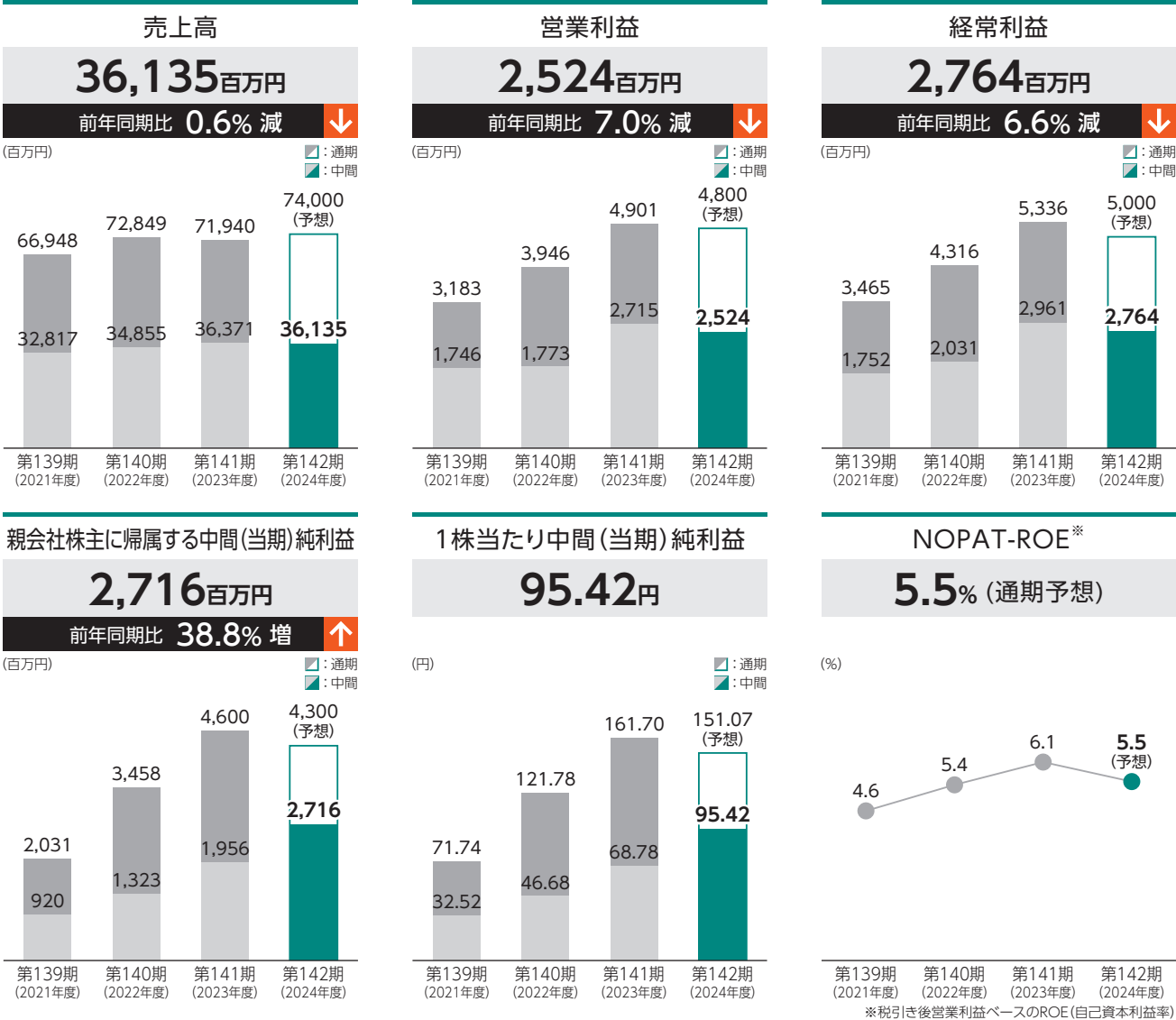
▶ 詳しい内容につきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.dnt.co.jp/ir/management/vision/>



財務ハイライト

Financial Highlights

詳細は当社ウェブサイトに掲載されている投資家情報をご覧ください。
<https://www.dnt.co.jp/ir/financial/highlight/>
トップページ>投資家情報>業績・財務情報>業績ハイライト



国内塗料事業

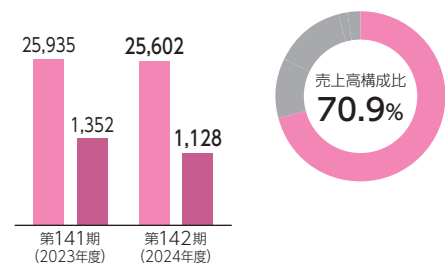
売上高 256億2百万円
前年同期比 3億32百万円減少



営業利益 11億28百万円
前年同期比 2億23百万円減少



売上高 営業利益
(百万円)



海外塗料事業

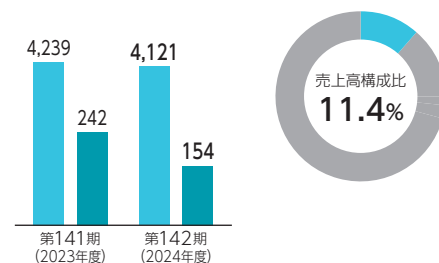
売上高 41億21百万円
前年同期比 1億17百万円減少



営業利益 1億54百万円
前年同期比 88百万円減少



売上高 営業利益
(百万円)



照明機器事業

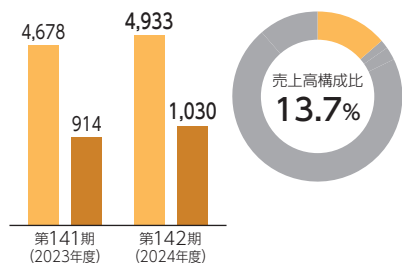
売上高 49億33百万円
前年同期比 2億54百万円増加



営業利益 10億30百万円
前年同期比 1億16百万円増加



売上高 営業利益
(百万円)



蛍光色材事業

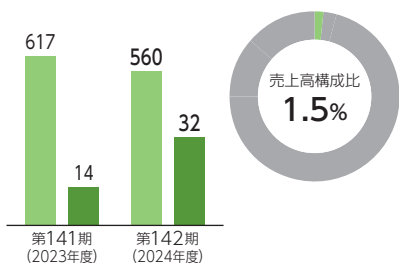
売上高 5億60百万円
前年同期比 57百万円減少



営業利益 32百万円
前年同期比 18百万円増加



売上高 営業利益
(百万円)



その他事業(物流・塗装工事)

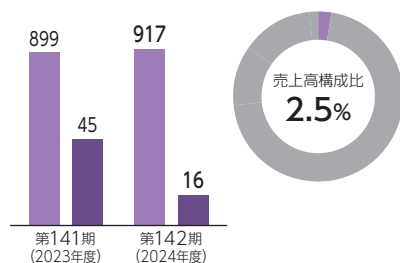
売上高 9億17百万円
前年同期比 17百万円増加



営業利益 16百万円
前年同期比 29百万円減少



売上高 営業利益
(百万円)



東京オフィスをリニューアル

組織の垣根を越えたイノベーションを
発揮しやすい職場環境へ

当社は10月1日、東京都大田区にある営業オフィスを全面リニューアルしました。

「仕事をする環境は自分で選ぶ」という考え方に基づいた近代的なワークスタイル「ABW(Activity Based Working)」を採用。固定席を大幅に減らし、働く場所を自由に選べるよう設計することで、従業員同士の接点を増やし、組織の垣根を越えたイノベーションを発揮しやすい環境を整えました。

当社では「ビジョン2029」に向けて「多様な人材の確保と能力を発揮できる環境づくり」をマテリアリティ(重要課題)のひとつとして特定しています。今後も従業員が能力を発揮できる環境づくりを推進してまいります。



採用物件 グラングリーン大阪のイベントスペース 「ロートハートスクエアうめきた」

大規模再開発「グラングリーン大阪」は、オフィス、ホテル、中核機能施設、商業施設、都市公園、住宅を有する巨大な複合施設として9月に先行開業しました。グラングリーン大阪のイベントスペース「ロートハートスクエアうめきた」には、公園内の自然に溶け込むような曲線を描く大屋根が建設されました。このシンボリックな建築は、単層ラチスシェル構造により大空間を造り出し、その鉄骨の長期耐久性確保にDNT防食塗料が採用されています。イベントスペースは、JR大阪駅に直結していますので、是非、大屋根に足を運んでください。



設計:㈲SANAA事務所、施工:うめきた2期共同企業体(㈱竹中工務店・㈱大林組)、鉄骨:日鉄エンジニアリング㈱
採用塗料:ゼッタールEP-2HB、エポオールZ、エボニックス#30下塗

こんなところにDNT

当社は総合塗料メーカーとして、防食技術を礎に様々な分野で人の暮らしを支えています。

また、塗料で培った技術を応用し、照明機器事業や蛍光色材事業、インクジェット用インクの事業も手掛けています。

構造物・重防食用塗料

当社が業界トップシェアを誇っている分野です。橋梁やプラントをはじめとする大規模構造物を腐食・さびから護り、長寿命化に貢献しています。

鉄塔

橋梁

プラント

蛍光色材

蛍光塗料や反射塗料を製造販売しており、視認性の高さから近年では河川の水位表示など、防災対策用としても需要が拡大しています。

ヘリポート

HOSPITAL

医療機関

商業施設

SHOPPING CENTER

鉄道

建築物用塗料

主に住宅やビルなどの建物の外装、内装に使用されています。遮熱塗料や有害物質を一切含まない塗料など、環境負荷低減に貢献できる製品も開発しています。

ビル

住宅

自動車

照明機器

商業施設や医療機関で使用される高級志向の照明機器において高いシェアを有しています。最近では住宅照明や紫外線除菌装置なども展開しています。

LED照明

工業用塗料

鉄道や自動車、その他工業製品に使用されています。当社はインクジェット用インクも手掛けており、塗料とインクを組み合わせた複合塗装も当社の強みです。

株式の状況／会社概要

(2024年9月30日現在)

発行可能株式総数 93,280,000株
発行済株式の総数 29,710,678株
株主数 17,835名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,893	10.1
明治安田生命保険相互会社	1,400	4.9
DNT取引関係持株会	1,383	4.8
株式会社三菱UFJ銀行	1,228	4.3
ダイニッカ株式会社	1,215	4.2
富国生命保険相互会社	1,000	3.5
株式会社島津製作所	1,000	3.5
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	937	3.2
東京海上日動火災保険株式会社	926	3.2
田邊康秀	829	2.9

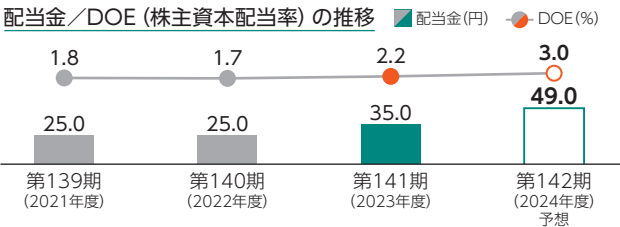
(注1) 自己株式（1,233,713株）を除いて記載しております。
(注2) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社概要

商号	大日本塗料株式会社 Dai Nippon Toryo Company, Limited
本社	〒542-0081 大阪市中央区南船場1-18-11
設立	1929年(昭和4年)7月25日
資本金	8,827百万円
主要な事業内容	塗料・ジェットインクの製造、販売 各種塗装機器装置の販売、塗装工事等

株主様への還元方針

当社は、株主の皆様に対する配当額の決定を経営上の重要課題の一つとして位置付けており、企業体質の強化、財務内容の健全性維持に努めつつ、業績に応じた配当を安定的に継続実施することを基本方針としております。



株主優待制度

保有株式数	優待内容	
	継続保有 1年以上3年未満	継続保有 3年以上
100株以上 1,000株未満	QUOカード 1,000円分	QUOカード 2,000円分
1,000株以上	QUOカード 3,000円分	QUOカード 5,000円分

【対象となる株主】
毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単位)以上を1年以上継続保有する株主様

詳細は当社ウェブサイトにも掲載しております。

<https://www.dnt.co.jp/ir/stock/dividend/>

トップページ> 投資家情報> 株式情報> 株主還元(配当・優待)



大日本塗料 2029年度 創立100周年に向けて

100年のあゆみ 第2回

1929年(昭和4年)

日本電池から分離独立。創業の地、大阪市此花区へ移転

7月25日に日本電池(株)[現(株)ジーエス・ユアサコーポレーション]の塗料部門を分離、独立。資本金50万円、従業員数わずか二十余人で発足しました。8月には大阪市此花区にあった塗料製造の老舗、阿部ペイント製造所(後の大阪工場)を買収し、本社を京都市から大阪市此花区に移転。ズボイドをはじめとする技術力を買われ、海軍省の指定工場に認定されました。



鉛粉塗料(株)本社・大阪工場

1936年(昭和11年)

社名改称。現在の「大日本塗料株式会社」へ

軍需に対応すべく関東圏にも生産拠点を拡大。これを機に5月1日、社名を鉛粉塗料(株)から現在の「大日本塗料株式会社」へ改称しました。

1938年(昭和13年)

日本の軍需に伴う海外進出

日本の中国・東南アジア地域への軍事進出に合わせて海外進出。上海、シンガポール、ジャワなど現地の塗料工場の経営を多く受託しました。1938年には既設工場を買収する形で上海第1工場を操業開始、翌年には上海第2工場を建設し、規模を拡大していきました。



上海第2工場